

# 令和7年度 静岡県立浜松南高等学校第4回学校運営協議会議事録

## I 日 時

令和8年2月12日（木）午後1時30分から3時30分まで

## II 場 所

静岡県立浜松南高等学校 第一応接室

## III 出席者

学校運営協議会委員

塩見 彰睦（静岡大学情報学部 教授）

林 左和子（静岡文化芸術大学文化政策学部 教授）

藤村 頼長（新津地区自治会連合会長）

森園 大介（PTA会長）

欠席者

奈木真由美（同窓会会長）

川嶋 利幸（浜松ホトニクス中央研究所産業開発センター長）

山下 広祐（有限会社春華堂経営サポート室 HOW`z 事業部）

学校職員

校 長 鈴木 学

副 校 長 向井 愛子

教 頭 山崎 修司

事 務 長 中村 光子

教務主任 後藤 健吾

## IV 内 容

### 1 校長挨拶

- ・部活動ではサッカー部と男子ハンド部が県大会、女子バスケ部と女子ハンド部が東海大会に出場
- ・1月には共通テストがあり、2月から3年生は家庭学習に入った。
- ・新校舎建築工事の進捗状況
- ・令和8年度は新校舎における新カリキュラム（7限目削減・補習精選）の実現と活用準備に取り組む

### 2 学校関係者評価

(1) 学校自己評価について(副校長より説明)

(2) 学校関係者評価(委員より意見等)

ア 高い志を育む

- ・相対的な増減を問うアンケートよりも1年を通して志を育む情報と機会が提供されるイベントがあったか、イベントから情報が得られたかといったアンケートの方が良いのではないか。

- ・大学へ行くための勉強ではなく将来を見据えた進路指導というのは、正にその通りだと思う。興味のある職業を先に見つけてその職業に向けた大学を進学先に選ぶといった進路指導もありだと思う。偏差値で進学できる大学を決めてドロップアウトしていく生徒も一定数いるので、それを防ぐためにも、将来の夢や希望を持って進学した方が良い。
- ・BtoBの企業はほとんど知られていない。大学進学を考える上で、いろんな職業が世の中にあることを知り、興味のある職業を探してほしい。

#### イ 学力を伸ばす

- ・家庭学習時間の平日2時間には学習塾を含めているか。この時代に、休日に3時間の勉強を強いるのはいいのか。休日は休むといった状況になってきているか。
- ・課題の出し方にも注意が必要。課題を提出しないから評価されない、課題は提出したが評価しないとすると、勉強する意欲を削ぐことになると感じる。課題を出しすぎるのもどうか。課題の総量を教員が把握しているか。
- ・休日は専門的なことに時間を費やしても良いのではないか。
- ・探究活動については、グループで深掘りし自己学習していて評価できる。
- ・読書について、国語以外の教科のテストでも読ませる問題文になっている。問題文をきちんと読めているのかといった声がある。小説ではない、探究学習や進路に係るような専門的なものを読むようにしていかないと、テストで回答できなくなっていく。
- ・読解力が問われている。読んで理解するといった分野の本も必要。感想文の書き方のひな型を与えて、それに応じた読み取りや書き方の訓練をしていけば、何を読み取ればいいのか、どう書けばいいかといったことがわかってくる。

#### ウ 人間力を高める

- ・部活動をやって帰宅してから平日2時間の家庭学習をして、生活習慣を確立するというのは厳しいのではないか。
- ・帰宅して最初に座るところが重要。そういった指導をするだけでも勉強に向くようになるかもしれない。
- ・校則を守っているという意識が生徒と教員とで隔たりがある。年に1つでいいので重点項目にして改善していくといった指導をしてはどうか。部活動からルールを守る指導をしていくのもいいと思う。
- ・避難先が重要で避難経路については二の次で良いのではないか。

#### エ 安全・安心な教育環境を整える

- ・保護者が知りたいことがいつでもそこにあるという状況を維持することが大事。どんな情報を保護者が知りたいか、学校が把握しているか。
- ・配付物はなくし、PDF化して決められたところに保存し、スマホなどでいつでもどこでも見れるようにするのが良いのではないか。

### 3 学校運営に関する協議

#### (1) 次年度の学校運営について

学校運営協議会意見の申し出として、第一体育館エアコン整備と教員の標準法に基づく適正な配置について提出することを承認した。